

かすみがうら

第131号
 <毎月1日発行>
 ■発行所■
 霞ヶ浦医療センター
 かすみがうら編集局
 〒300-8585
 土浦市下高津2-7-14
 Tel 029-822-5050
 Fax 029-824-0494
 E-mail & Web Site
 kasumi@kasumi.hosp.go.jp
 http://kasumi-hosp.jp/

院長就任のご挨拶

霞ヶ浦医療センター病院長 鈴木 祥司

平成25年4月1日より新院長を拝名いたしました。今まで地域住民の皆様は温かく支えられ、西田前院長や職員一同が不屈の精神で守ってきた伝統ある当院を、さらに発展させるべく尽力する所存です。どうぞ今後ともご支援をよろしくお願い申し上げます。

これから当院の目指す医療はふたつあります。ひとつは婦人科や女性疾患など得意分野のさらなる発展、ふたつめは病院の基礎体力ともいえる総合力の安定です。

ご存じのとおり、当院は昭和16年に開院した霞ヶ浦海軍病院を前身とし、終戦後には分院を含めて最大で2100床の病院でした。現在、独立行政法人国立病院機構の病院は全国に144病院あり、茨城県内では当院と水戸医療センター、東茨城病院(前 晴嵐荘病院)の3病院があります。ちなみに、大学病院は79病院、日本赤十字病院は91病院、済生会病院は79病院、厚生連病院は114病院ありますので、国立病院機構は日本で最も大きな病院組織体であり、政策医療を含め災害時なども一致団結した組織力で機動力を発揮します。とはいえ、日常業務の中心は地

域医療支援ですので、地域に貢献できるように住民の皆様は医療サービスを提供してまいります。当院は土浦市の中心部にありながら、大木が生い茂る高台にあり、初めて訪れる方が外から見てもどこに病院が建っているのかさっぱりわかりません。病院の旧正門を入ると右手に大きなヒマラヤスギが立っており、駐車場へ向かうと銀杏の大木が並んでいます。ヒマラヤスギは聖なる樹木と崇拝され、たくましさ象徴することですが、その松ぼっくりは薔薇の花にも似ています。また、当院の広大な敷地には井戸があり旧看護学校や野球場もあります。自然を生かした病院の環境整備を、今後地域住民の皆さんと一緒に考えてゆきたいと思えます。地域住民の皆様は支えなくして当院は成り立ちません。今後ともご指導の程をよろしくお願い申し上げます。

形成外科が追従していません。病理科常勤医がいることも当院の強みです。しかし、何よりも当院の底力は退院支援のためのカンファレンスや、社会復帰に向けての多くの職種介入による支援やリハビリを行うコメディカルスタッフの力です。病院の総合力をさらに高めて、地域に信頼される安心・安全でいねいな医療を目指していきます。

平成24年4月には当院に筑波大学附属病院土浦市地域臨床教育ステーションが開設されました。筑波大学との人事交流がますます活発となり、患者さんの受け渡しも迅速に行われるようになりました。さらには石井教授を中心に若手医師の教育と指導者の育成、そして地域医療実践のための研究などを行ってまいります。

現在の日本の医療改革は、救急医療、へき地医療、周産期医療の整備など急性期医療に視点が置かれています。しかし、長い目でみた高齢化社会の中での医療ニーズに合わせた地域貢献、病気の治療以外に、発症前の予防や再発予防のための医療サービスの提供、発症した後も社会復帰や自立のための医療サービス提供など、成人医療全般の橋渡しを当院は行っていきます。そして国立病院機構の一員として、災害時医療活動や政策医療などを全国で丸とって進めて参ります。“1人で見える夢はただの夢、皆で見る夢は実現可能な夢”。今後ともたくさんの方のご支援をいただいで、地域に開かれた病院運営を目指していきたいと思えます。

オーダーリングシステム導入による効果
 企画班長 山本 邦夫

当院は、平成25年4月1日からオーダーリングシステムを導入します。オーダーリングシステムとは、「検査や薬の処方などににかかわる情報伝達システム」のことです。医療現場の業務の一部を電子化することで業務の省力化、より良いサービスの提供を目指します。

具体的には、従来医師が紙に書いていたオーダー(検査内容や処方箋等)をコンピュータに入力すると、関連部門の業務が連動します。そのため、診察から医事会計業務までの迅速化・精度向上に最大の利点があります。

本システムの導入に伴い、待ち時間の短縮や伝達不備による医療事故の防止が期待されます。さらに業務の省力化により、看護業務などにおいていくつか充実したサービスを提供できるものと考えています。

オーダーリングシステム導入による患者さんに対するメリットは、次のとおりです。

① 待ち時間の短縮
 これまでより指示の伝達が早くなり患者さんにとっては、各受付での待ち時間が短縮されます。

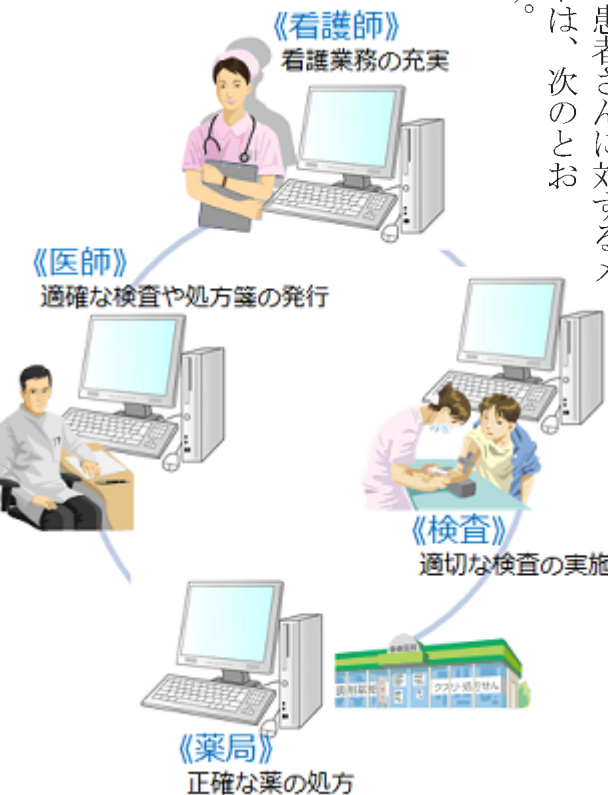
② 事故の防止
 医師がパソコン上で過去の投薬情報などを確認することができ、投薬ミスなどの防止につながります。また、検査のシステムと連携することによって、転記ミスも防止できます。

③ サービスの向上
 院内業務の省力化・時間短縮ができることにより、患者さんのケアやサービスの向上に充て、より良い医療の提供に努めることができます。

※本システムの稼働にあたり入念な準備を行なっていますが、稼働開始当初はシステムに不慣れなため、診察時間が通常よりかかる場合がございます。

ご来院の皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、予めご了承願います。

(かすみがうら平成25年 2月号から抜粋)



退任のご挨拶

名誉院長 西田 正人

11年に亘る院長をやつと卒業しました。

私が院長になったのは丁度小泉純一郎が総理大臣になった年でした。小泉さんは短距離ランナーの様に時代を疾走して、5年で大役を降りました。私はその後更に6年持久走を続け、やつとたすきを次の走者に渡せました。

今振り返ってみますと、この病院での勤務は、筑波大学に次いで2番目の長さになり、不思議な縁を感じずにはいられません。

人は皆、どこかで人生の選択をします。自分の希望で動くこともあれば、人事によって指示されることもあるでしょう。私は、いま振り返ると、人生の大きな岐路で常に誰かに誘われて動いてきたことに気がきました。しかも、どちらかという割と安易な誘いに乗って。

大学を出て、周囲の反対を押し切って新設の北里大学病院の産婦人科レジデントになったのも、たまたま北里大学病院を見学に行ったときに、産婦人科の助教に思いっきり飲まされて、断れなくなつてしまったためでした。大学で、それまで全く経験の無い陸上競技を始めたのも、ビールと蟹サラダがきっかけでした。

当院に赴任したのは、前任の青崎院長から声を掛けられたからでした。実は青崎先生とは学生時代にお会いしたことがあったので

四十数年前の医学教育は大学の中だけでおこなわれ、ほとんど外へ出る機会がありませんでした。唯一出られるのは、6年生の夏休みに先輩の“つて”を頼って実習をさせて貰うことくらいだったのです。私は外科系に進むことは決めていましたので、医師になつてからはもうやらないであろう内科の実習を希望しました。海辺が良いと考へ、勝手に浜松日赤に応募しました。ところが、隣の静岡日赤に居た競走部(早慶では陸上競技部をこう呼びます)の先輩から、

「浜松に行くとはけしからん。やるならこっちに来い」と電話が掛かってきて、「静岡日赤も海辺だろうから、いいか」というわけで、急遽、実習病院を静岡日赤に変更したのです。

当時、静岡日赤には10名くらいの内科医が居ましたが、その内3名がクラブの先輩でした。2週間の間、全部病院に泊まり込んで、夜間、休日の救急まで全て一緒に診療させて貰いました。しかも、医局にはビールの箱が山積みされており、夜になると、ほとんど宴会状態で、私には願ってもない環

境だったのです。その中に、一人酒を飲まず、口ひげを生やし、ちよつと見野口英世を思わせるような風貌の先生が居ました。これが青崎先生でした。一番年齢が近かったこともあり、良く面倒を見て頂きました。

何の因果か、その青崎先生が当院の院長になられたことを知ったのは、私が筑波大学で助教授になつてからでした。

「いいか、西田。お前はいい形で教授選に落ちろ。その後ほうちに來い」とお誘いを頂いたのです。随分乱暴な誘われ方だとは思いましたが、そう言つて頂けるのもありがたいことですから、

「その時は、宜しくお願いします」と軽く受け流していたのですが、結果的に青崎先生の予言通りになり、しかも、

「ほらみる、言つたとおりだ。黙つてうちに來い」と、とどめを刺された。当院に赴任することになりました。

きっかけは何でも良いのです。大事なことはそのきっかけによつて巡り会つた縁を運命として納得できるかどうかなのです。

私はこれまた非常に簡単に、「これは自分の運命だ」と受け止めることができます。

「もう逃げ場はない。与えられた環境の中で、できれば大輪の花を咲かせる以外自分にとつての選択肢は残されていない」と何処へ行つてもすぐに思ってしまうのです。

の陰という考えは、私には全くないのです。自分がその集団の一員となつて、その集団を良い方向、明るい方向に導いてゆける程、人生でやりがいのあることはないと思つています。例えそれがどんなに小さな集団であろうと、面白さはあるでしょうし、それがどんなに偏屈な集団であろうと続けてさえいければ、いつか周りは自分を認めてくれるようになります。

ご存じの様に、当院は私が院長になつた頃から、医師の引き揚げが重なつて、診療科が減り、入院病床を縮小し、職員の数を減らして、対応せざるを得ない状況が続いてきました。皆様にはその間、非常にご心配をお掛けし、また、御迷惑をお掛け致しました。

おかげさまで、土浦市が筑波大学に寄付講座を開設して下さい、医師が増えたことが幸いです。病院は立ち直ることができました。

私には全くの引き金になつたのは、住民の方々の陳情であつたと聞いております。

「住民パワーが医師の増加に繋がることはほとんどない」といつて良いほど珍しいことなのですが、その奇跡的なことが、土浦では起きたことになりました。

私は人一倍苦労もしましたが、その分、今、他では味わうことのできなかつた喜びを与えて頂いています。

地域の皆様によつて支えられたこの病院が、今度は地域の皆様の健康と幸せのために努力して、恩を返す番です。

不思議な縁に感謝しつつ、この病院の院長を去りたいと思ひます。

今後とも、当院の行く末を暖かく見守つて頂きますよう、宜しくお願い申し上げます。

「4月集団指導のご案内」
☆減塩教室(第3木曜日)
午後2時〜 第4会議室

「工夫しておいしく 食べよう!減塩食」
管理栄養士

「食事療法、3日坊主を卒業しよう!」
管理栄養士

「糖尿病と検査値」
臨床検査技師

「糖尿病とは・・・原因・症状・合併症など」
内科医師

「糖尿病とくすり」
薬剤師

予約の必要はありません。お気軽にお越しください。



「公開市民講座のお知らせ」
会場/地域医療研修センター講堂
日時/4月25日 午後3時〜
「薬と肝障害」
〜最近のC型慢性肝炎の
治療と進歩〜
消化器内科医師
金子 光太郎

「4月集団指導のご案内」
☆減塩教室(第3木曜日)
午後2時〜 第4会議室

「工夫しておいしく 食べよう!減塩食」
管理栄養士

「食事療法、3日坊主を卒業しよう!」
管理栄養士

「糖尿病と検査値」
臨床検査技師

「糖尿病とは・・・原因・症状・合併症など」
内科医師

「糖尿病とくすり」
薬剤師

予約の必要はありません。お気軽にお越しください。